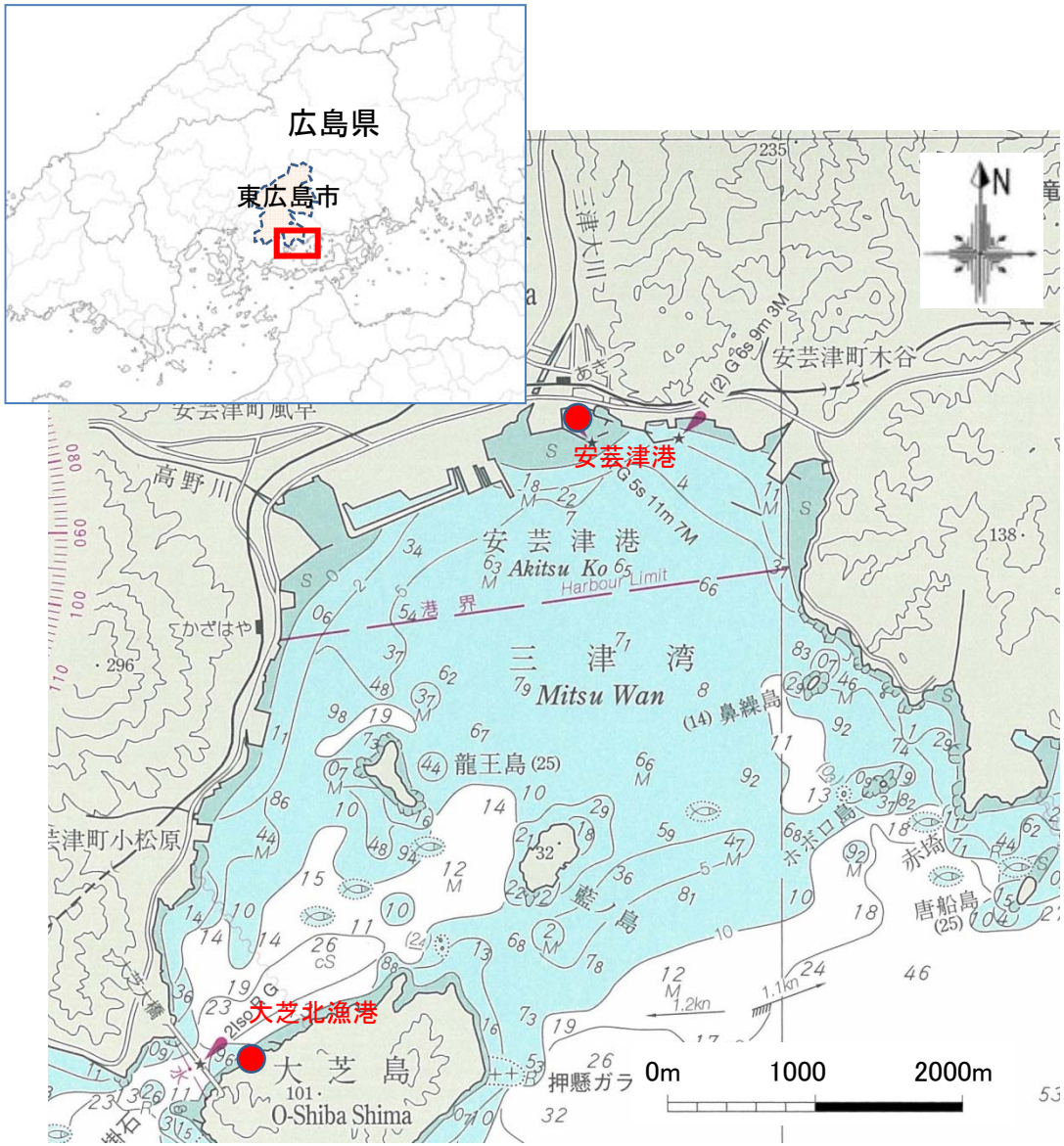
資料3

（3） 地域の物質循環に係る情報整理

3.1 三津湾の概要

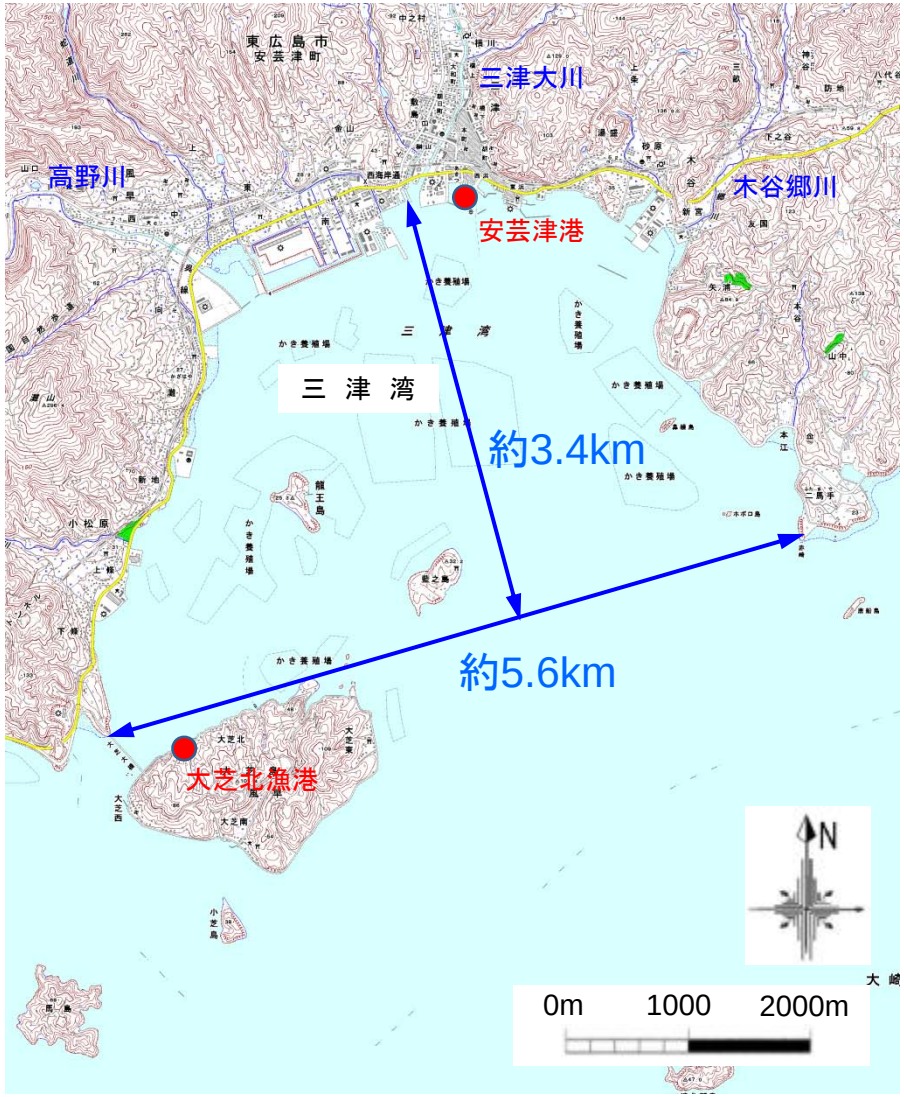
三津湾の概要



- 瀬戸内海の中央部に位置し、奈良時代から海運の拠点として利用される。
- 江戸時代は米の集散地であり、現在も酒造地として知られる。
- 湾周辺は山々に囲まれている。
- 地方港湾の安芸津港、第2種漁港の大芝北漁港が位置する。

面積	約25ｋm^2
湾内平均水深	約10m
環境基準類型	COD：A類型
	全窒素及び全リン：Ⅱ類型

三津湾の特徴

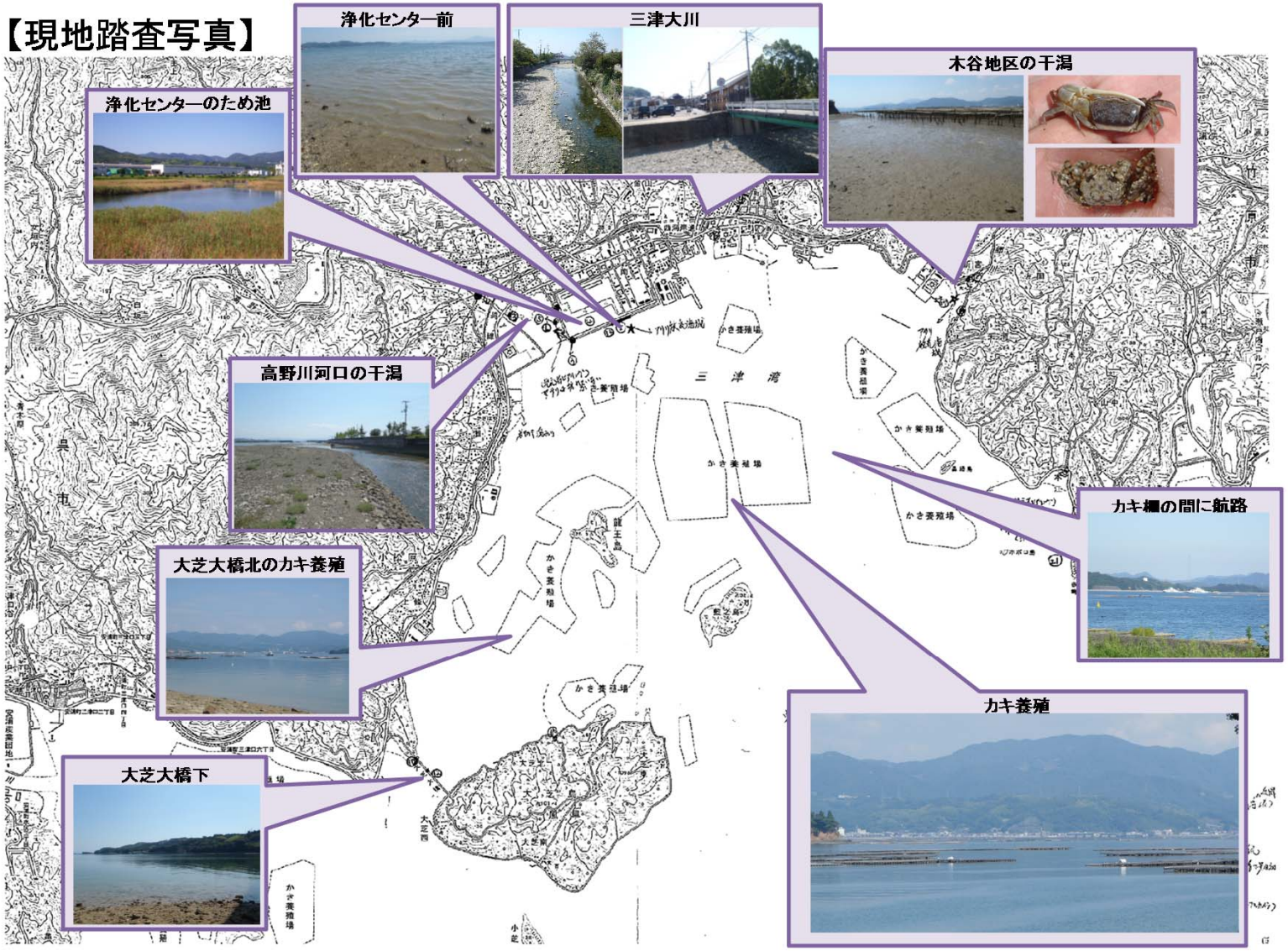


- 湾口幅が約5.6km、湾口から湾奥の距離が約3.4kmの半円形。
- 二級河川の高野川、三津大川、木谷郷川などの中小河川が流入する。
- 湾奥の安芸津港周辺から西側の沿岸部、河川周辺の平野部に市街地や集落が多い。
- 標高400～500mの山が海岸線近くに迫る。
- 湾の広域でカキ養殖が行われており、一部に真珠養殖がみられる。

3.1　三津湾の概要

三津湾の風景

【現地踏査写真】



3.2　三津湾における不健全な事象について

障害の変遷

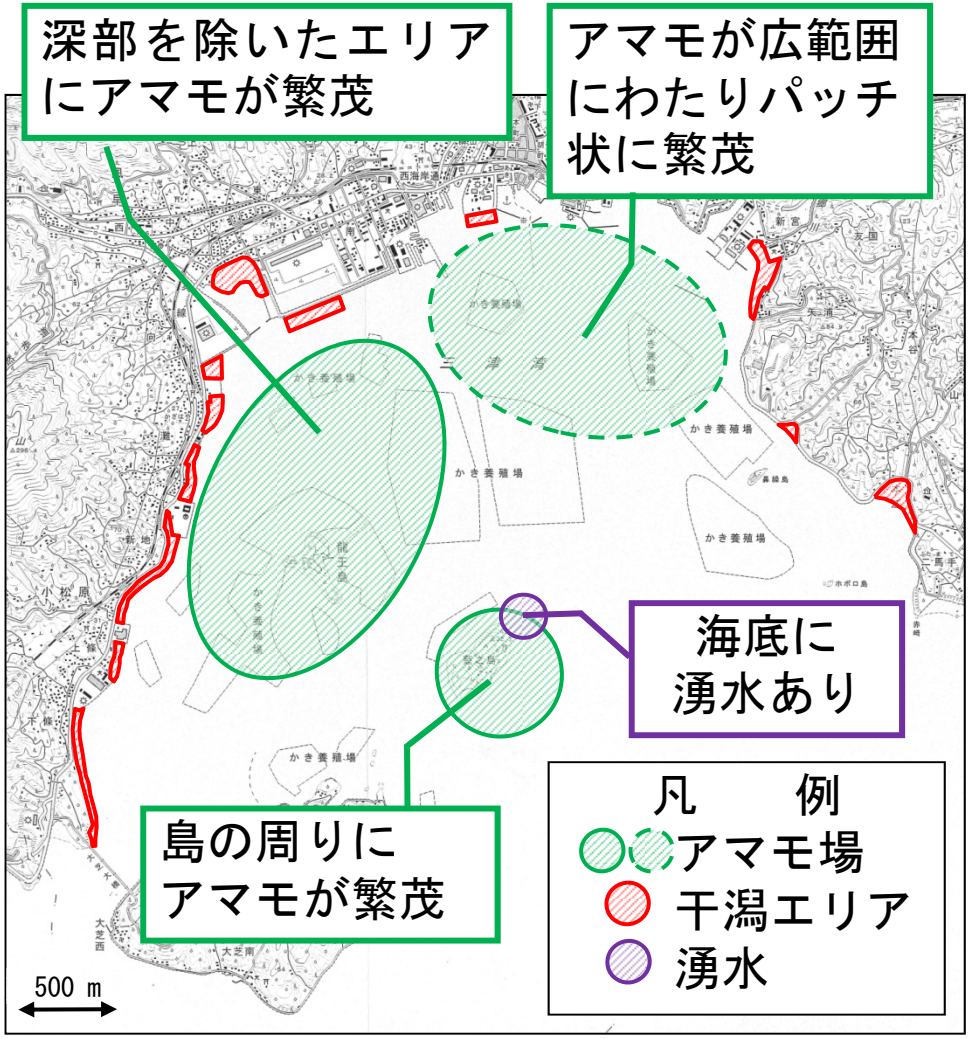
- 3～4年前から、底層のカキの斃死が多くなってきた。
- 20年前にはアサリの潮干狩りが盛んだったが、近年は殆ど見かけない。

⇒ これらの障害と原因（不健全な事象）との関係は明らかではない。

	項目	～1980年代	1990年代	2000年代	現在	考えられる原因	備考
障害の発生	アサリの減少	アサリの最盛期	→	→	減少	干潟のヘドロ化 食害	漁業者へのヒアリング
障害の発生	カキの小粒化				小粒	栄養塩類の不足 人為的負荷の減少	昔から(?)
障害の発生	カキの斃死			表層に比べて底層で斃死		貧酸素水塊 食害 水温上昇 産卵後の自然死	3～4年前から多くなってきた
障害の発生	魚介類の減少			横ばい傾向			
対策	浄化センター			稼働			2007年～
対策	アサリの放流			放流事業			2007～2009年 効果確認できず
対策	干潟の造成		干潟造成事業				
対策	鉄炭団子撒布				試験実施		今年度、調査継続中
その他	アマモ場			繁茂			数年前から(?)

3.2　三津湾における不健全な事象について

ヒアリングによる環境情報の整理



【アサリ】
- 20年程前は、多く生息していたが、近年は殆どみられない。
- 近年、ナルトビエイやクロダイが増加している。
- 放流してもアサリはすぐに消失する。

【アマモ】
- 最近はガラモが減ってアマモが増えてきた。
- 20年以上前、ノリ養殖をやっていたころは少なかったが、ここ数年間で多く繁茂するようになった。
- アマモが繁茂しだしてから、カキの身入りがよくなってきた。

【カキ】
- クロダイやフグによる食害が発生している。

【湧水】
- 藍之島近くの海底に湧水の出る箇所があり、カレイ等の漁場になる。

3.2　三津湾における不健全な事象について

その他の不健全な事象に係る事項

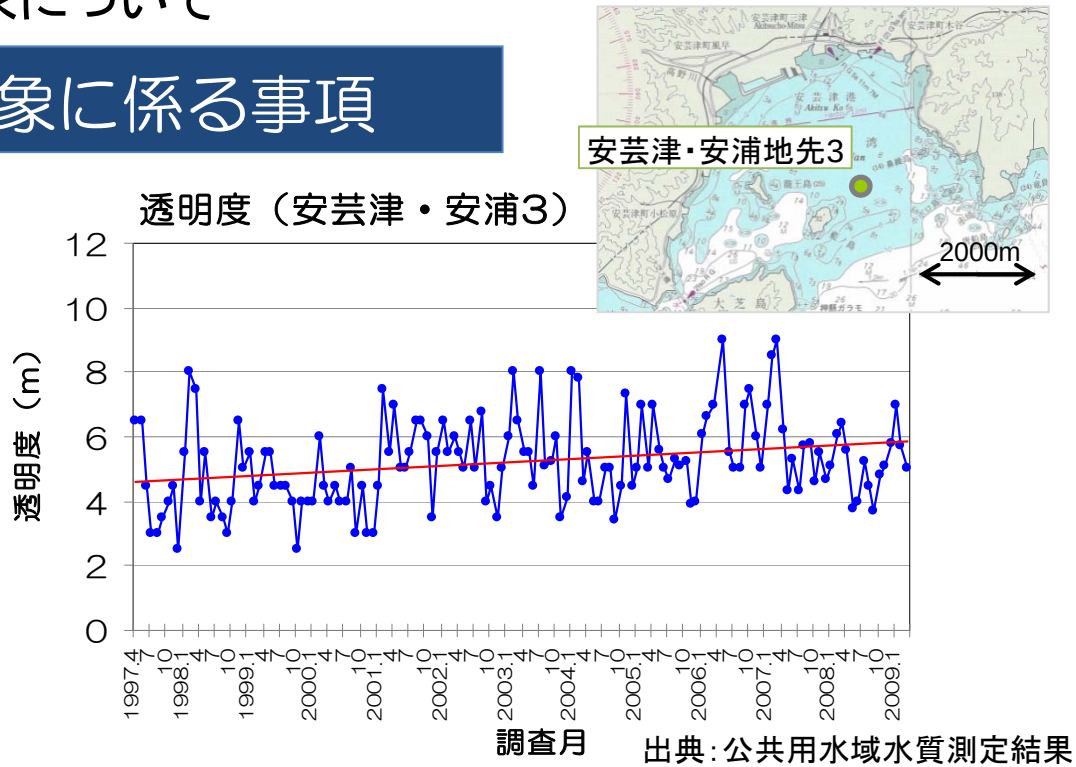
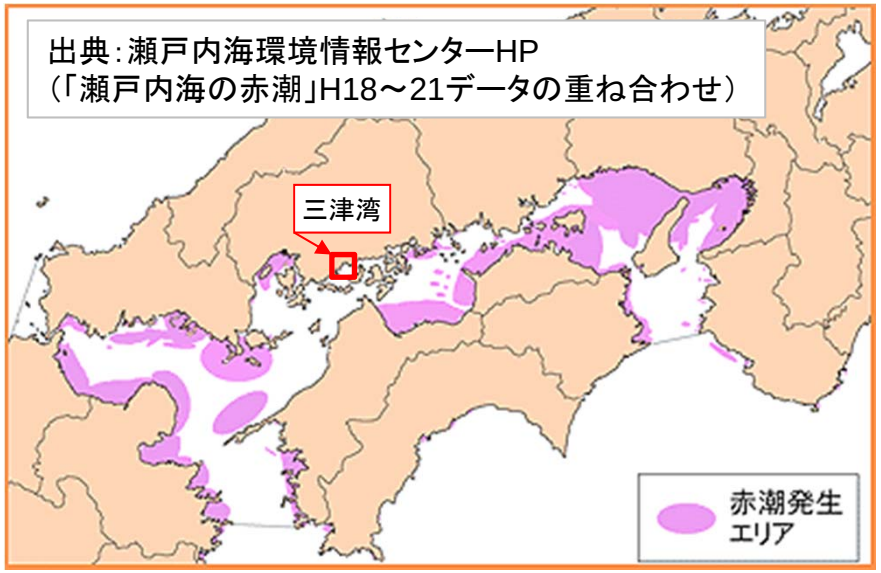
【透明度の変化】

- 悪化はみられず、緩やかな上昇傾向にある。

【赤潮の発生】

- 「瀬戸内海の赤潮」「海の健康診断結果」によると、三津湾では、赤潮の発生はみられていない。

→ 障害に関する報告はあるが、貧酸素水塊や底質の悪化など不健全な事象や環境変化に関する情報が少なく、現状や要因との関係に不明な点が多い。



出典：公共用水域水質測定結果